

## リニア 協定締結 落としどころ見えず ◆認可5年で副知事

『中日新聞』2019年10月16日（一部抜粋）

### ◆難波副知事・一問一答

リニア中央新幹線の着工が国に認可され、十七日で五年になるのを前に、本紙のインタビューに応じた難波喬司副知事との一問一答は以下の通り。

－認可から五年、静岡工区はいまだ未着工。

（県とJR東海の）協議が進まない理由は、工事で何が起きるのか、リスクがはっきり分かっていないことがある。もう一つは住民の心配や不安をJRは分かっていない。

－JRは二〇二七年の開業に影響が出るのではと焦っている。着工のタイムリミットをどう考えるか。

すぐ着工しないとまずいでしょう。JRはちゃんと説明資料を出してきたらい。JR東海は一回も建設工事をしたことがない。新線を一本も増設してないから、環境アセスもやったことがない。工事で住民と対話をしたこともない。だから時間がかかる。

－湧水の県外流出が主要な争点になっている。

われわれは水がものすごく大事だと思っているから、できるんだったら上から（下り勾配工法で）掘ってください、と。ゼロリスクにしろという話をしているわけじゃない。住民や利水者の不安が解消できるレベルの説明をしてくださいと言っている。まずは（下りか上りか）それぞれの工法で発生する問題の事実を確認する。そこまで行き着いたら、どっちにするか、価値の議論になる。その段階で、国交省から助言があるかもしれない。

－JRは「着工してみないと分からないこともある」との見解。

それはその通り。われわれもそういうことは初めから言っている。全て事前やれとは言っていない。リスク管理で毎秒三トン（の湧水が出たら工事を中断する）という数字があるが、暫定的に認めた。あの辺の地質はものすごく複雑なので、三トン出るとか十トン出るとか分からない。今の技術力では（正確に把握することは）不可能。ただ、もうちょっと細かく分析してもらえませんかとは言っている。

－協議の着地点は。

落としどころはある程度、影響の度合いとかが見えていると、じゃあ、まあそうですかとなる。そこも見えない状態で落としどころはない。JRは今までどうい話し合いがされてきたのかをもう一回、理解するべきだ。

－知事から地域貢献を求める発言もあった。

地域に不安を与えるのは間違いない。事業者としてやることはあるんじゃないか。われわれの行政コストはすごいけど、県には何も生まない。これだけの工事をやるのなら、社会的責任として、南アルプスの環境を少しでも良くしましたというようなことがあってもいいんじゃないか。

（聞き手・岸友里）